

長崎県雲仙市の栽培地における土着天敵（ゴミムシ類）の多様性

栗原一清・中村禎二（㈱大地の杜）・本藤 勝[○]（住友化学㈱）

ゴミムシ類は、畑地やその周辺で活動する種類が多く露地野菜類の土着天敵としてその活用が期待される。

長崎県の島原半島にある雲仙市周辺の農地（畑地）は、さまざまな露地野菜類が栽培される。これらの畑地は、普通石垣で区画されるだけで、周辺の森や草地と切れ目なく連続したところが多い。昨年の本大会では、秋季にこのような農地内やその周辺の林縁部、草地にピットフォール・トラップを仕掛け、得られたゴミムシ類の多様性について報告した。

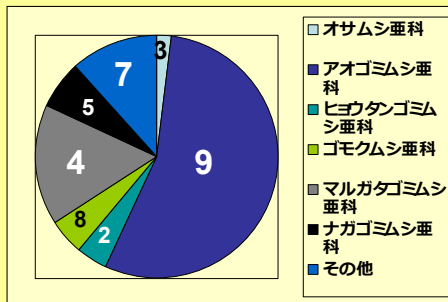
今回、夏の時期におけるゴミムシ類の採集を継続したところ、図に示すように夏季と秋季では種類構成は異なる傾向が認められたが、得られた種類数はほぼ同等であった。また、雲仙の栽培環境と異なりコンクリートの排水路などで区画整備され、周辺環境からより隔離された条件の畑で同様の調査を実施したところ、得られたゴミムシ類の種類数は雲仙の約 1/3、また個体数は約 1/4 であった。雲仙の畑地では害虫が発生する夏から秋にかけて、多様なゴミムシ類が多数活動し、土着天敵として働いていることが示唆された。

今後、このような土着天敵の働きを生かした害虫防除方法の推進が重要と考えられる。

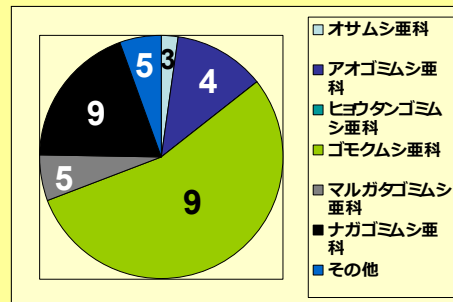
畑内で採集されたゴミムシ数の割合

夏と秋で採集される種類構成は変化した、年間を通じ畑内で多様な種類が活動していた。

夏 (6-8月) 38種類



秋 (9-10月) 35種類



数値は得られた種類数を示す